

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03486

研究課題名(和文) グローバル時代に対応する新たな歴史教育戦略の構築に関する国際比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of History Education in the Global Era

研究代表者

馬 曉華 (Ma, Xiaohua)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30304075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、記憶の相克がアジア・太平洋地域における知的共同体の形成をどれだけ制約し、かつ影響を与えてきたかを、比較歴史教育学の視点から解明することを目的としている。具体的には、国際関係に影響を与え続けている歴史問題、とくに戦争史教育をめぐる問題についての構造的な分析を行い、その解決に建設的な提言を行なうとともに、歴史の和解を実現できる新たな方策を模索する。

研究成果の概要(英文)：This project was to explore the role of history education in the process of confidence building and reconciliation in the Asia-Pacific region. It also attempted to find a new strategy for a history reform in order to educate younger generations to play active roles in the global world.

研究分野：国際関係史

キーワード：歴史教育 和解 戦争の記憶 共存

1. 研究開始当初の背景

アジア太平洋地域において知的共同体は成立し得るか。その成立のために有利な条件は何か。また、その前に立ち足る障害要因は何があるか。

この大きな問いに対して、本研究は、記憶の相克がアジア太平洋地域における知的共同体の形成及びグローバルな人材育成体制の構築をどれだけ制約し、かつ影響を与えてきたかを、比較歴史教育学の視点から明らかにする。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは、記憶の相克がアジア・太平洋地域における知的共同体の形成をどれだけ制約し、かつ影響を与えてきたかを、比較歴史教育学の視点から解明することを目的としている。具体的に第2次世界大戦後、公的記憶の創出・伝達・増幅の過程で大衆メディアが国民意識の形成に果たした役割を明らかにする。その上で、グローバルな歴史研究者ネットワークを構築し、歴史の和解を実現できる新たな方策を探る。

3. 研究の方法

(1) 基礎的考察として、戦争記憶・和解・歴史教育・共存の関係についての先行研究の総括と研究動向の分析および新資料の発掘などに集中し、研究活動を進めてきた。これにより、研究グループの全員は戦争記憶・和解・歴史教育・共存に関する基礎知識を共有し、研究方法のコンセンサスを確立できた。

(2) 既存の研究の達成点と盲点を明らかにした。先行研究を網羅的に収集したうえで、先行研究が何をどこまで明らかにしたのか、既存研究で解明されていない課題は何なのかを探った。戦争史教育をめぐる諸問題、とくに日中戦争をめぐる論争や対立軸がどこにあるのかを分析した。または日中戦争に関する歴史認識に関する分析視角の設定、日本およびアジア・欧米諸国における戦争展示をめぐる博物館論争や歴史認識に関する分析視角の設定や問題解決の方策、および歴史教育の課題を試みた。

(3) 研究代表者・分担者はそれぞれ基礎的な文献収集・分析を行ったほか、現地における質的調査を行った。文献資料の他、当事者の口述資料の収集・整理・分析を通じて、歴史の和解を実現できる新たな方策およびグローバル時代における歴史教育の在り方を検証した。

4. 研究成果

本研究は、国際共同研究の体制を構築し、共同研究の国際的な発信力を強化することが確認できた。とくに戦争史研究の最新情報と成果の共有を図る体制および歴史研究者ネットワークの構築に力を注ぎながら、国内外から専門家を招く研究会、公開講演会、ワークショップ、国際シンポジウムなどを開催した。

主なワークショップ・国際シンポジウムは、以下の通りである。

(1) 「東アジアの和解と歴史教育」(2015年)

- (2) 「アジア太平洋地域の和解と共生」(2016年)
- (3) 「和解への道：日中戦争の再検討」(2016年)
- (4) "Peace-Building and Civil Diplomacy" (2018年)

本研究プロジェクトの実績としては、『和解への道：日中戦争の再検討』資料集(2016年)および英語論文集 *Seeking Common Ground: Challenges and Opportunities in the Asia-Pacific* (2018年)を刊行した。

これまでの研究成果を基に、論文集『グローバル時代における歴史教育戦略の構築』(仮題)を刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

岡田泰平「記憶の政治」研究を振りかえる
ピエール・ノラ編『記憶の場』日本語版の受容を中心に、『歴史評論』、査読有、2018年2月、808号、5-22頁。

岡田泰平(書評)「Rick Baldoz. /The Third Asiatic Invasion: Empire and Migration in Filipino America, 1898-1946, *Philippine Studies: Historical and Ethnographic Viewpoints*, 2018年、85巻、第3号、387-390頁。

岡田泰平(訳)「想起を介した忘却 日比におけるアジア太平洋戦争の碑と観光」、『歴史評論』査読有、2018年、第808号、38-49頁。

Xiaohua Ma (馬曉華) Museum Wars: Japan's Struggle over History and Identity in the Global Era, " *Orientaliska Studier* (Sweden), 査読有, Vol.150, 2017, 42-57.

Xiaohua Ma (馬曉華) Rethinking Peace-Building in East Asia: The Case of Japan's Struggle over History in Postwar Era, *Contemporary Chinese Political Economy and Strategic Relations*, 査読有, Vol.3, No.1, 2017, 181-212.

馬曉華「<負の世界遺産>が語る20世紀の戦争と和解：アウシュヴィッツ強制収容所の世界遺産登録を軸に」、『英文学会誌』査読無、2017年、第62号、83-111頁。

岡田泰平「植民地大学について 研究史からの試論」、『史潮』査読有、2017年8月、78-89頁。

松田利彦「1927年植民地朝鮮における華僑排

斥運動』、『韓国朝鮮文化研究』査読有、2016年、巻16、1-24頁。

馬曉華「戦争の記憶と観光文化の創出：ハワイの人気観光スポットを中心に」『英文学会誌』査読無、2016年61号、47-72頁。

Xiaohua Ma (馬曉華) China, Japan, and the United States in World War II, *Contemporary Chinese Political Economy and Strategic Relations*, 査読有, Vol.1, No.2, August 2015, 451-488.

〔学会発表〕(計7件)

Xiaohua Ma (馬曉華) "History Controversy and Reconciliation in Sino-Japanese Relations," Annual Conference of Asian Studies Conference Japan, Rikkyo University, July 8-9, 2017.

Xiaohua Ma (馬曉華) "Fighting for "Peace": Museums Wars and Sino-Japanese Reconciliation," The 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Lisbon, August 30-September 1, 2017.

岡田泰平、"Sexual Violence in Cebu Towns and Its Place in Historical Memory," Consortium for Southeast Asian Studies in Asia, Bangkok, Thailand, December 16-17, 2017.

Xiaohua Ma (馬曉華) "History, Education, and Reconciliation in East Asia," The 3rd International Conference on Social Science, Singapore, February 18-20, 2016.

Xiaohua Ma (馬曉華) "Museum Wars: Conflicting Memory and History in Sino-Japanese Relations," The 10th Annual Conference of the Nordic Association of Japanese and Korean Studies, Stockholm University, August 17-19, 2016.

松田利彦、「戦後日本の韓国認識 植民地支配問題を中心に」、『韓国誠心女子大学』2016年2月13日。

Xiaohua Ma (馬曉華) "History Controversy and Reconciliation in Sino-Japanese Relations," The Fifth International Conference on Asian Studies, Adelaide University, Australia, July 5-7, 2015.

〔図書〕(計10件)

岡田泰平「日本軍「慰安婦」制度と性暴力 強制性と合法性をめぐる葛藤」上野千鶴子、

蘭信三、平井和子編『戦争と性暴力の比較史 へ向けて』岩波書店、2018年。

Xiaohua Ma (馬曉華) 編、*Seeking Common Ground: Challenges and Opportunities in the Asia-Pacific*, 学術研究出版、2018年。

馬曉華「グローバル・ヒストリーのなかの日中戦争」第8章、黄自進・劉建輝・戸部良一編『日中戦争とは何だったのか：複眼的視点』ミネルヴァ書房、2017年、205-235頁。

劉傑「石射猪太郎と日中戦争」第3章、黄自進・劉建輝・戸部良一編『日中戦争とは何だったのか：複眼的視点』ミネルヴァ書房、2017年、63-85頁。

澁谷由里『馬賊の満州：張作霖と近代中国』講談社、2017年。

岡田泰平「戦争ノ平和と生存 アジア太平洋戦争を中心に」、『現代歴史学の成果と課題 第4次第1巻』績文堂出版、2017年。

岡田泰平「占領地日本のセックス・ワーカーについて 語りと曖昧さをめぐる考察」『アメリカン・レイパー：合衆国における労働の文化表象』彩流社、2017年。

松田利彦『日朝関係史』吉川弘文館、2016年。

澁谷由里『<軍>の中国史』講談社、2016年。

馬曉華『博物館・戦争遺跡が語る歴史の和解と共生』学術研究出版、2016年。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

馬 曉華 (MA, Xiaohua)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：30304075

(2) 研究分担者

松田 利彦 (MATSUDA, Toshihiko)
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：50252408

劉 傑 (LIU, Jie)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：80288018

澁谷 由里 (SHIBUTANI, Yuri)
帝京大学・文学部・教授
研究者番号：80283050

岡田 泰平 (OKADA, Taihe)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：70585190

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()